

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」宇都宮校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	34
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者に応じた支援プログラムを立案し療育を行っているの で、保護者も一緒に療育に参加できること。 個々に合わせた教材づくりをおこなっていること。	支援内容が毎回同じにならないようにする。 教材が同じ時間で重ならないように、職員間で話し合っ て順番などを決定している。	利用者の習熟度に合わせ一人ずつ教材を考えていく。 各指導員の強みを活かした支援内容を組んでいく。
2	フィードバックで、しっかり振り返りが出来ることで、保護者 様の最新のニーズの聞き取りができること。 支援する側も最新の情報共有が出来ること。	学校での様子や些細なことでも話を伺いお子さまの支援内容に 反映できるよう努め、指導員全員が保護者と深く話ができるよ うにしている。	家族支援という形でなくても、工夫点のおかげでどの指導 員でも保護者から話を伺って、相談を受けることができる。 その結果、関係機関連携へと進んだり、適切な支援を行うこ とが出来る。
3	支援内容に合わせ、パーティションで仕切りを作り個々の療育 に配慮している。また、支援プログラムの組み立てや、内容の 調整ができること。	支援担当者が被らないようにローテーションを行っている。当 日担当者から情報共有をし記録に残すことで支援内容の相談も スムーズに行える。	週1回のミーティングを継続していく。相談だけで終わり にせず対応策を考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	駐車場の数に限りがあるため、送迎時にご利用者様に不都合に なる場合がある。	混雑が予想される時間帯は駐車場が混み合い、空き待ちが発生 してしまう。予め、保護者の方にお迎えの時間をお伝えした り、場合によっては支援後のフィードバックを途中で切り上げ ることがある。	予定を組む段階で、利用時間帯の分散をする。 また、フィードバックでお伝えしきれなかった部分はLINEで お伝えしていく。
2	必要な防災訓練を行って教室掲示で周知しているが、保護者か ら見えづらい。	月一忘れないうちに避難訓練を就学プログラム内で行っている ため放デイのお子さんの時間帯の参加が難しい。 訓練中の様子を写真撮影をし掲示しているが、掲示場所が目立 たない。	避難訓練の様子を写真で教室内に掲載する。 掲示場所を目立つ場所に変更し、説明の文章を記載すること によって保護者への周知を行う。
3	教室の構造上、一度に受け入れられる人数が限られている。感 染症対策もあり、同時間の人数の制限をせざる得ない。	毎日の清掃、消毒、適宜換気を行っている。また、指導員の体 調管理に気を配っているが、構造上の問題でワンフロアの為、 換気がしにくい。	毎日の清掃、換気、消毒を継続。 利用者の健康状態を観察、把握していく。 温度・湿度計で現在の教室の状態を把握し、空気清浄機の水 交換をこまめに行う。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 どもサポート教室「きらり」宇都宮校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 38

回収数 34

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	6		2	仕切りがあるため、周りを気にせず集中できています 利用時間が重複する場合に若干狭く感じる	同じ時間に利用するお子さまによって場所を決めたり、パーティションを使用し利用者同士の組み合わせなど配慮し対応できます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	31	2		1	活動の後もしっかり見てくださるので安心しています	フィードバック中にお子さんが一人にならないように今後も見守っていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27	4		3	利用者が多い日は活動しにくい時もある	利用者様の人数に合わせ、配慮した運営をおこなっていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27	5		2	音に関してはパーティションのみなので時折、集中が難しいと感じます	構造上の問題もあるため、集中が途切れそうなお子様には時間変更調整や内容を工夫し、進めていきます。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	34					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	33			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	32	1		1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31	2		1	先生によってアプローチが異なり、一連の継続した支援となっているか不安に感じることがある	継続した支援ができるよう職員間での情報連携を図り対応を進めていきます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	33			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	31	2		1	先生によってやり方が違うので、そこがよいところだと思う 毎回色々な課題を考えてくださっている	個別支援の内容を踏まえたくらうてお子様に合わせた支援提供を目指していきます
保護者 への 説明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	8	10	11	必要ないと思います	現段階で機会がありませんが、機会があったら周知していきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	34					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33			1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	23	7		4	研修等、都合が取れず参加できていませんが 家族支援で教えてもらっています	今後、ニーズの確認をしていく中で検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	34					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	33			1	家族支援の際に、困りごとなどの相談に対してアドバイスしてくれる	毎月、事業所内相談の設定のご希望を伺い、ご希望の際は日程を調整し、実施をしています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34				当日の子どもの気持ちに寄り添って対応してくれます	ご利用者様に向き合い並走できる支援計画を作成しています。
保護者 への 説明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	12		16	交流の機会は希望していないので、この種の支援がなくても良いと思う	今後、交流の場としてご希望が出た場合には開催を検討していきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33			1	毎月、家族支援の際に相談でき、それ以外でも申し入れできる環境	交流の場としてご希望が出た場合には開催を検討していきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	34				フィードバックを丁寧にしてくださっている	保護者様との積極的なフィードバック機会を設けることで意思疎通を図ります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	5		10		今まで通りSNSや案内を作成し周知していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31			3		契約時に個人情報の取り扱いの説明を行なっています。個人情報に関して事務室の鍵付きロッカー内に保管しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	30	1		3		各種マニュアルに関してはファイリングしていつでも確認ができるようにしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29			5		月に一度避難訓練は実施し、ご利用中のお子様に参加してもらうなどをしている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	32			2		保護者様からもご意見を聞いて教室環境の改善に努めている。定期的にお子さんに参加してもらい避難訓練を実施している。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30			4		事故が起こらないよう日頃より教室内の安全確認を行っておりますが、発生した際には速やかに対応いたします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	34				心が許せる人が少ないわが子が、どの先生にも心を開いています。	お子様が安心して過ごせる雰囲気づくりを意識しています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	31	3			先生とのやり取りが楽しいようで、いろいろと話してくれています	来所した際に楽しいと感じてもらえるようなテーマの設定や取り組みなどを計画していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	33	1			苦手なことも嫌いににならないように教えていただけてありがたいです。 課題のどの部分を重点的にやるとよいのかなど共有してもらえるとより嬉しいです	苦手意識をもたないようお子様の興味を引き出すようテーマ設定やカリキュラムを検討していきます。また何を重点的にすべきか検討し対応していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」宇都宮校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	パーテーションで区切って他の教具等に目が行かないよう気を付けている。	利用者の特性や体調を踏まえ、保護者とも相談しながら、無理のない形でレイアウト変更を行い、安心して身体を動かせる空間づくりを検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		予め同時時間帯の利用者さんが重複する場合は保護者様に了解を得て小集団療育を取り入れている。	集団が負担にならないよう利用者の様子を丁寧に観察し、保護者と情報共有を行いながら、職員配置や支援方法を調整していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	車いすが入れるバリアフリー化はされていないが、室内の療育場所を確保し体制を整えている。	気持ちの切り替えが難しい場面にも配慮し、保護者の意見も伺いながら、安心して落ち着けるクールダウンスペースの整備を進めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		ジョイントマットを敷いたり、パーテーションで仕切りを作っている。	利用者の動きや使いやすさを考慮し、保護者からの意見も参考にしながら、教具配置の見直しを行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーテーションを利用し、個別ブースを作っている	音や刺激に対する感じ方は個々に異なるため、保護者と相談しながら、利用時間や環境調整を柔軟に行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		情報共有を徹底している。	保護者からの気づきや家庭での様子も含めて共有し、より利用者に寄り添った支援につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎回、保護者からの評価表結果より会議を開き業務改善につなげている。	評価結果に対して丁寧に受け止め、保護者の思いを共有しながら、安心して利用いただける環境づくりを進めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎週、意見交換ミーティングを行っている。	利用者や保護者の声を支援にどう反映するかを意識し、改善内容を職員間で確認しながら進めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	評価表の作成は行っているが、第三者評価は行っていない。内部監査や実地指導等実施済み。	現在は第三者評価を実施していないため、今後は外部の視点を取り入れることも検討し、より客観的な質の向上につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月研修があり、質の向上にお繋いでいる。また、必要に応じて外部研修に参加している。	研修で得た学びを、保護者対応や利用者理解に活かせるよう、職員間で共有していく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		情報共有を徹底している。他の指導員の支援内容、記録を参考に今の利用者さんの状況を踏まえプログラムの調整等を行っている。	利用者の成長や変化を保護者と共有しながら、支援内容を無理なく見直していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		フィードバック時にアセスメントを行い情報共有やミーティングを行い利用者さんのニーズに合うよう作成している。	保護者が気軽に相談できる関係づくりを大切に、気持ちに寄り添った対応を心がけていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議等で情報共有をし、個別支援計画を作成した際には、管理者より声掛けがあり、内容を確認しプログラムを組んでいる。	支援方針について保護者にも分かりやすく説明できるように、職員間で共通理解を深めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成した支援計画を全体で共有し個別支援計画の内容に沿って支援を行っている。	保護者の思いや不安を丁寧に受け止め、計画内容に反映できるよう努めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		個々の成長をみながら必要な課題を作成し、情報共有後、様々な教材や案を出し合い、支援に役立てている。	課題が負担にならないよう、本人の様子や家庭での状況を踏まえて調整していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		お子さんのニーズに合わせ家族支援などを基に支援内容の見直しを進めている。またご要望に応じ移行支援の相談を受け支援に設定している	家族の思いや将来への不安に寄り添いながら、段階的で安心できる支援を検討していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		小集団プログラムや等を通じ利用者さんの支援内容について意見を交わし適宜プログラムの立案を行っている。	集団参加に対する不安にも配慮し、本人、保護者双方の気持ちを尊重して進めていく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	お子さんのニーズによっては大幅な変化を求められない方もいるので、個々に合わせた内容を工夫しすすめている。	「できる・できない」にとらわれず、本人のペースを大切にしながら保護者と方向性を共有していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	必要に応じ小集団の形を取り他児と交流を図り進めている。	交流が負担にならないよう、保護者と相談しながら関わり方を調整していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	当日のご利用者情報についての共有を行っている支援内容は個々で行っているが必要に応じ相談や共有をしている。	家庭での様子も踏まえた支援ができるよう、保護者からの情報共有を大切にしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援前に当日の共有を済ませている。	十分な共有が難しい場合も、後日フォローを行い、保護者への説明も丁寧に行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援後に共有事項があった場合は情報の共有を図っている。	記録が遅れる場合も、保護者への伝達が滞らないよう工夫していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的なモニタリングを実施している。必要に応じ目標を変更し計画を立てている。	成長の変化を保護者と共に喜び合い、今後の支援方針を相談しながら決めていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	お子さんの成長を見守りながらより良い支援を行うため関係機関と情報共有をし適切な判断等を頂き活動を行っている。	連携内容を保護者にも分かりやすく共有し、安心していただける支援につなげる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	複数の教材を用意しており、本人に選んでもらったり、本児に意見を伝えてもらったり等を組みあわせ実施している。	自立に向けた取り組みについて、保護者と目標を共有しながら進めていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児発管と支援担当者が一緒に参加し情報共有を行っている。	支援の一貫性が保護者にも伝わるよう説明を心がける。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	関係機関連携の体制を整えているので必要に応じ各機関と連携を図っている。	保護者の意向を確認しながら、必要な連携を無理なく進めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	保護者同伴での来所のため、学校との情報共有は関係機関連携等でやっている。	学校との関わりについても、保護者の希望を尊重しながら調整していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	地域の連携は保護者が希望していない場合もあり個々に応じ対応している。	希望が変化した場合にも柔軟に対応できるよう、丁寧に確認していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	該当者なし	－
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	研修等に参加している。	学びを保護者対応にも活かし、安心感のある関わりを目指す。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	該当なし	－
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	市で開催される協議会等に参加している。	得た情報を支援や保護者説明に役立てていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎回フィードバックを行い情報共有をしている。	保護者が理解しやすい伝え方を意識し、安心につなげていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		現在はプログラムとしての提供は行っていないため、今後希望者に向けて家族支援プログラムや研修の案内を積極的に周知し、参加しやすい環境づくりを進める。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に丁寧にお伝えし、疑問があれば質問にお答えしている。	不安や疑問が残らないよう、繰り返し確認を行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	ご家族のご要望があれば、こちらからも積極的に発信している。	保護者の思いを尊重し、支援内容に反映できているか定期的に確認する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	サービスの見直しごとに支援内容の説明と計画の同意を頂いている。	内容を分かりやすく説明し、納得感を大切にしてい進めていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じ家族支援の実施をしている。	家族の負担や状況に寄り添い、無理のない支援を心がける。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		現段階では希望者がいないため実施していないが必要に応じ開催したい。	保護者の希望やタイミングを踏まえ、交流の場を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった際には真摯に受け止め、上長に判断を仰ぎ適切に対応している。	保護者の思いを受け止め、信頼関係を損なわない対応を継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、SNSやホームページで教室情報を発信している。	発信内容が誤解を生まないよう、保護者への説明も併せて行う。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に関するファイル保管に関しては、事務所のロッカー（鍵つき）に保管している。	保護者が安心できるよう、管理体制の周知を行う。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子様一人ひとりに合わせ、意思疎通を図り、情報の伝達もとりのしやすい方法で配慮している。	家庭での関わり方とも連携し、一貫した支援を目指す。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	ご利用者様以外に向けて、無料の体験プログラムをご用意している。	保護者が安心して参加できるよう説明を丁寧に行う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止マニュアルを準備し月1回の避難訓練を実施している。	災害時の不安軽減のため、保護者にも内容を共有していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP委員会や研修の機会を設け非常災害の発生に備えている。	非常時対応について保護者へも周知し、安心につなげる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		フェイスシートに予め情報を記載していただいている。	家庭状況の変化があれば、気軽に伝えてもらえるよう配慮する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			食事提供は行っていない	必要時の対応について、保護者と事前に相談しておく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全管理計画の作成を行い、定期的に研修に参加し必要に応じ話し合いを行っている。	安全面の取り組みを保護者にも分かりやすく伝えていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約、避難訓練の際に避難場所の提示を行っている。	保護者の不安軽減につながるよう、繰り返し周知する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起こった際はすぐに上長に報告し再発防止のための会議を行っている。	再発防止策を保護者にも必要に応じ説明し、信頼関係を築く。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止・権利擁護委員会を設置し、研修等を実施している。	子どもの権利を守る姿勢を保護者とも共有していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約書、重要事項説明書、また個別支援計画に身体拘束に関する記載をし周知を行っている。	不安や疑問があれば、いつでも説明できる体制を整える。